

平成 16 年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 4 部・芸術系(美術)

氏 名 橋本 泰幸

プロジェクトの名称	地域文化財教育活用プロジェクト	配 分 予 算 額	2,809,000 円
プロジェクトの概要	本プロジェクトは、鳴門教育大学を中核に、鳴門市及び大塚国際美術館と連携し、それぞれの機能を相互補完的に発揮することで、豊かな地域教育力及び教育実践力の構築を図るとともに、地域文化財を生かした教育の実現を図ることを目的としている。そこで、本プロジェクトは、大塚国際美術館が持つ教育的価値を探るために三つの課題を設定した。 1. 教育活動の支援と実践。地域文化財を活用した学校現場との連携によるプログラムの確立を目指す。 2. 芸術・文化活動の支援と実践。具体的には大学、美術館の共同によるワークショップの実施、活動手引き書の発刊等。 3. 大学の活性化と地域貢献。①美術館を活用した学部・大学院授業の実践。②学部大学院のカリキュラムの改善。③多専門分の連携による教養教育の確立の三つを目標とする。 本プロジェクトでは、以下のプロジェクトの実施方法・計画を立案し実施した。 ① 教育活動の支援と実践 - 地域文化財を活用する教育プログラムの開発 「絵画資料を活用した歴史教育内容開発」 田中 優, 梅津正美 「地域文化財を活用した国際理解学習の単元開発」 西村公孝 「美術館を活用した鑑賞教材・プログラムの作成」 橋本泰幸 ② 芸術・文化活動の支援と創造 - N * C A P (Naruto Children's Art Park) 山田芳明, 谷口幹也, 藤原伸彦 ③ 大学の活性化と地域貢献 - 美術館を活用した学部・大学院授業の実践 「大塚国際美術館を利用した学部教育の実践」 小川 勝, 鈴木久人 - 学部、大学院カリキュラムの改善 「大塚国際美術館を利用した大学院授業の改善」 山木朝彦, 西田威汎 - 多専門分野の連携による教養教育の確立 「大塚国際美術館を活用した教養教育開発」 小野功生		
成 果 の 概 要	本プロジェクトは地域文化財の教育活用を目指すものであるが、本年度は鳴門市の文化財の一つである大塚国際美術館をとりあげ、学校教育や生涯教育に対して、美術館がいかなる価値を持つのか、それを探り出すことを目的とした。平成 16 年度は大塚国際美術館の教育的価値について焦点を当て、大塚国際美術館を学びと文化創造の場として、鳴門市学校現場と大学との三者協力による、豊かな教育・文化活動の実現に向けた実践例、具体案の蓄積ができたのではないかと考えている。しかし、学校現場との連携プログラムの確立。また、教養教育の確立については、計画、あるいは目安はついたものの、実施、さらには検討の上での確立という水準にまでは至らなかった。これは地域文化財の活用が現状の大学カリキュラムに生かすことが如何に困難かを物語っているといえよう。残念ながら、学校現場での実践とプログラムの確立は、次年度以降に持ち越されてしまった。原因の多くに文化財(大塚国際美術館)との現実的な距離があげられるが、同時に大学と外部の間にある精神的な距離も原因していると考えられる。大学が学術の研究指導についての姿勢、その事実はカリキュラムに現れるといえるが、この姿勢を学術の伝達から、カリキュラムに弾力性を持たせ、学生自らが学問を研究するカリキュラムに変更する時、様々な地域の文化財が教育的価値を持って現れて来るであろう。 また、具体的な成果としては、鳴門市+鳴門教育大学+大塚国際美術館の産学連携の事業として、子どもを対象とした美術館ワークショップ N * C A P (Naruto Children's Art Park) が挙げられる。プロジェクトメンバーである山田、谷口、藤原氏が企画運営し県内外から高い評価を得ることができた。年度末には、N * C A P の活動報告書として「美術館と遊ぶー教師のための実践事例集+ワークシート集」を刊行し、県内外の美術館、教員に配布し、本学の事業の成果を広く公開することができた。また、本学が管理するサーバーにおいて N * C A P ホームページにて (http://www.naruto-u.ac.jp/~art/n-cap/) その活動と成果を公開している。		